

自然資源の利用・配分に関する地球規模での対応の変遷概要

- 1945年 (地球)資源の利用・配分に関する問題意識と調査・研究は始まっていた。
- 1972年 国連人間環境会議(人間環境宣言:ストックホルム) B.W、R.D 「ただひとつの地球」、ローマクラブ 「成長の限界」
- 1980年 米国カーター大統領報告書「西暦2000年の地球」
- 1982年 国連環境計画(UNEP)(ナイロビ宣言) 1982年 世界資源研究所(WRI)設立
- 1985年 「The Global Possible」(WRI)
- 1987年 環境と開発に関する世界委員会(WCED)報告「Our Common Future」(ブルントラント報告書)
- 1989年 3月「ハーグ宣言」、9月「地球環境保全に関する東京会議」、11月「ノルトブレイク宣言」
- 1991年 WRI 「2050プロジェクト」提案+ブルッキングス、サンタフェ
- 1992年 環境と開発に関する国連会議(WCED)(リオ・デ・ジャネイロ)

気候変動枠組み条約、生物多様性条約、アジェンダ21

- 1996年 米国大統領PCSD報告書 「Sustainable America」
- 1997年 気候変動枠組み条約第3回締約国会議(京都CO3) 1999年 WRI-ミレニアム生態系評価プロジェクト提案
- 2000年 ミレニアム開発目標、ミレニアム生態系評価、
- 2002年 持続可能な開発に関する世界サミット(WSSD)(ヨハネスブルグ)
- 2005年 ミレニアム生態系評価、
日本 「持続可能な開発のための教育の10年」、「3R提唱」、
JCSD「多様な生命が維持可能となる発展ビジョン」創り呼びかけ編
- 2006年 1972年までのEU主導、1992年までの米国主導、2002年までは？ そして、これからは、日本が主導？
- 2008年 G8サミット(日本ホスト国)、北京オリンピック
- 2010年 ミレニアム開発目標、上海博覧会 (生物多様性条約COP10—愛知・名古屋 誘致中)
- 2012年 WSSD+10年、
- 2013年 気候変動—京都議定書後のCO2排出削減対策
- 2015年 ミレニアム生態系評価、「持続可能な開発のための教育の10年」、「3R提唱」、
- 2017年 30年目、環境と開発に関する世界委員会(WCED)報告「Our Common Future」(ブルントラント報告書)
- 2020年
- 2030年